



こんにちは

村田 けい子 です

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

移動事務所 090-9144-8534

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

2021
№296

生産者の負担増の補償、まず300万円予算化



3月29日 佐久広域連合議会傍聴記

生産者への補償がどれほど予算化されるのか確認のため、3月29日の広域連合の議会を傍聴。令和3年度の予算では「畜産農家支援対策補助金」として300万円を予算化。議会では「その積算根拠は？」との質問に、「予算化したのは1月の生産者からの補償をの声を受けて急遽見積もったので概算」との答弁。

議員の「この金額で不足するのではないか。その時はどうする？」の質問に「補正を組んで補償する」との回答が。事務局に確認すると「激変緩和措置」とのこと。あくまでも暫定措置であり、やがてはなくするとの話。今後の注視が必要です。

翌30日の信濃毎日新聞では「全額補償」の記事が出ました。蓼科牛を絶やさないためにも、これからの毎年の運動が必要になります。

構成自治体のすべての議会での廃止決定を受けて初めて廃止議案が提出された。

広域議会本会議では、各自治体からの「廃止」決定の出そろったのを確認した上で、初めて、「佐久広域連合佐久広域食肉流通センター設置及び管理に関する条例を廃止する条例の制定について」が議題として提案されました。

つまり、佐久広域連合の仕事から3月31日をもって「屠場の運営」が削除されました。また、食肉センター特別会計は残務処理もあり5月30日までとされました。

広域連合来年度予算では、解体費として2億8500万円。立科町は1441万7千円。(人口割80%、均等割20%)

Q. 解体のスケジュールは？

【答】 設計委託—連休明け／入札—お盆前
／業者契約—9月議会
／10月—解体工事は今年中に。

次の土地利用は決まっていないが、現在の土地用途が「と畜場」となっているが、工業団地の中にあるので、用途変更する。

驚いたことに、食肉センターの財政調整基金として39,248千円もあり、特別会計が閉鎖になることで、広域連合の歳入に全額繰り入れられたことです。つまり、それだけの余力があったのだから、「もし万一の赤字となったら」という議論は何だったのか。ということになります。1月の時点でJAなどから出された「改善案でも1300万円の赤字が出る」との話も、ちゃんと補填する体力はあったということです。

突っ込んだ議論ができない広域連合議会の在り方、町と広域連合の付き合い方に課題を残しています。広域連合3月議会では、質問も討論もなく、「異議なし」で決まってしまう、議会の形骸化を感じました。

町民からは「6月末の最初の会議で『継続は困難・3月までに譲渡先が見つからなければ閉鎖』の方針に反対してほしかった。」「最後までと畜場閉鎖反対を貫いてほしかった」と町長の対応を残念がる声がたくさん届いています。



我が家でお花見

今週のパチリ

4月下旬並みのぼかぼか陽気に誘われて、我が家の梅・さくら・サクランボが花盛り。メジロが花の蜜をついばんでいます。

花の下に立つと甘い香りが漂い、畑ではミニ水仙が黄色いラッパをあちこちに向けて「春だ、春だ」と声を上げています。お隣のコブシの花がほころび始めました。春がドット押し寄せました。

「川西赤十字病院の現状と今後の課題」

—なくてはならない川西日赤病院—

川西日赤院長の大和(おおわ)眞史先生が、3月末で退職されることを受けて急遽企画された同講演会は、老人福祉センター集会室いっぱいの参加者であふれ、真剣な聴講と意見交換となりました。

講演資料として、丁寧な10ページにわたる資料が用意され、理路整然と40分間の講義が行われ、それを受けて質疑・意見交換が行われました。次々と会場から手が上がり、フロア発言が活発に行われて、川西日赤がいかに地域に大切にされているかを再確認する集会となりました。



お礼の花束を手にした大和日赤病院長



川西日赤病院

【以前の形】
全体で1,000床

【現在の形】
全体で400床

「川西赤十字病院を支える会」

入会募集中、年会費500円
申し込みは村田まで
(56)2868 090-9144-8534

【病院の概要】

- ・病棟：一般病床49(一般19+地域包括ケア30)療養33(医療25、介護8) 計 実働82床
- ・看護体制 患者10:看護師1 (一般病棟について)
- ・常勤医は令和2年4月から内科6名+整形外科医1名(大内名誉院長)
- ・外科・眼科・泌尿器科 外来 4月から小児科新設

- ・リハビリテーション・・・理学・作業療法士8名、言語療法士1名(非常勤)
- ・訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、
- ・手術室・エックス線CT装置、超音波、内視鏡検査、臨床検査
- ・職員99名、薬剤師・画像診断・検査・栄養士各2名、リハ8名、事務12名、連携3名他医師・看護師

【川西日赤病院の特徴】2022年で90周年の歴史。2025年度を目途に改築予定。

- ①佐久医療センターからの転院先としてダントツの患者受け入れ(5人に一人・全体の19%)療養・回復期を支えている。(2013~2018年度)
- ②川西地域で唯一の入院機能のある病院。
- ③立科町の住民への送迎の体制が取られている。(予約制)
- ④救急搬送も年間1,100人。身近で駆け込める頼れる病院。
- ⑤ワクチン接種などにも医師・看護師の派遣をしてもらえる。
- ⑥佐久地域では、全国と比較しても回復期・慢性期病床の民間比率は低く、公立・公的病院の役割は大きい。
- ⑦医業収支で赤字が続き年間1億円にも。診療への単価が安い。
- ⑧この間、入院者数は横ばいだが外来でのべ患者数が減り続けている。高齢化に伴い病院へ来る足がないことが大きな要因となっている。(村田によるまとめ)